

タイトル:「見た目がすべて」とは言いませんが。

細胞工学研究室 武田征士

「男は中身や!見た目ちゃう!」と思って生きてきましたが、やはり見た目は重要です。私のようなチンチクリンよりも、背が高く筋骨隆々鼻高スマートな方がモテるのは当然です(注:そんな男でも悪い人はいるからね!最後はやっぱり中身やで!)。ヒトはモテるためにジムに通ってムキムキになったりお洒落をしたりするのでしょう。では、植物ではどうでしょう?実は植物も生存をかけて、様々な「見た目」を持つようになりました。特に目をひくのは花、なかでも花弁の派手さです。植物は、花粉を運んでくれる鳥や虫に見つけてもらうため、花弁の色や形を発達させてきました。私のここ数年のマイブームは「サギソウ」です。1枚の花弁が何でこんな形に?いったい、進化上で何が起こったん?どうやってそんなギザギザ作れるん?何のためなん?ポリネーター(花粉媒介者)誰なん?と、疑問は尽きません。これらの疑問に答えるべく、DNA、細胞、生態レベルでの研究を進めています。もうひとつのマイブームは「虫こぶ(ゴール)」です。虫こぶは一部の昆虫が植物に作る特殊な器官ですが、どー見ても「変なの!」という形態をしています。なんでそんなところにそんなものが!変やで!どうなってんねん!現在、京都府大内の虫こぶ研究チームによって精力的に研究が進められています。

私自身、見た目がすべてちゃう!と思いつつ、変な植物や動物に魅力を感じざるを得ません。今回は、そんな変人がいつも何考えて生きているのか、サギソウや虫こぶ研究から分かってきたことと併せて発表させていただけたらと思います。

(図) 左:サギソウの花、中央:花弁鋸歯の細胞形態解析、右:ヨモギの虫こぶ

